

特集] なぜいま、ディープオーガニックなのか？

はじめる“ディープオーガニック”
ポラン広場東京の集いに集まろう！

有機農業ってなんでしょう？

なぜ農薬や化学肥料を使わないの？

どうやって農薬を使わずに病気や虫から作物を守るの？

あらためて問われるとうまく説明しにくい有機農業の定義や論理について、
日本を代表する有機農業研究者の一人、農学博士・西村和雄さんが
誰にでも分かるようにズバリ！と解き明かします2017
2/18 SAT
三鷹産業プラザ

低投与型有機農業・超低投与の自然農業の達成に向けて！

オーガニック&ナチュラル ポラン広場東京の集い2017

日時 2017年2月18日(土) 13:00~17:00

会場 三鷹産業プラザ 7階 会議室
三鷹市下連雀3-38-4
(JR中央・総武線三鷹駅南口徒歩7分)

開会 13:00(開場12:30)

内容 第一部 13:30~15:00
講演(京都大学農学博士・西村和雄氏)第二部 15:30~17:00
参加者との質疑応答ほか

参加費 1,000円(事前申込で無料)

お申込み
&
お問合せ ポラン広場東京事務局
TEL.0428-22-6821 E-mail:office@polano.org

詳細はウェブサイトをご覧ください www.polan.tokyo.jp

来場者プレゼント

事前参加申込の方に、会場にディスプレイされ
た旬の有機野菜・果物やポランのオーガニック
&ナチュラル食品・生活用品をプレゼント！

講演者プロフィール

西村 和雄 氏
にしむら かず お1945年、京都市生まれ。京都大学農学部修士課程修了。環境科学総合研究所、京都大学助手、同大学フィールド科学教育研究センター講師を経て、2007年退職。京都大学農学博士
著書に、『おいしく育てる菜園づくりコソの科学』『有機農業コソの科学』『西村和雄の有機農業原論』(七つ森書館)など

はじめる“ディープオーガニック”

ポランは、現代農業で多用される化学肥料を有機肥料に代替した多投与資材依存型「準有機」農業を脱し、ディープオーガニック(造語です)すなわち低投与型有機農業・超低投与の自然農業に取り組み、その展開をしていきます
「オーガニック&ナチュラル」という表現には「有機農業と自然食品」に留まらず、「低投与型有機農業」「もっと低投与の自然農業」への成熟を成し遂げる、という考えが込められています

ネットワーキングニュースレター復刊！

NPO法人ポラン広場東京に集う皆さまの交流、ネットワーキングをより円滑に、タイムリーに、有機的に結ぶべく、皆さまの活動や事務局の動向などを発信するペーパーメディア『ネットワーキングニュースレター』2013年5月創刊号から毎月発行し、2014年12月号をもって紙媒体での発行は休刊となりました。この間、ウェブサイトですぐ活動情報を配信しておりましたが、約2年の時を経て復刊することが決定。今後は偶数月に皆様のお手元にお届けの予定です。皆さまからの寄稿や活動などの情報も掲載していきたいと考えています。情報をお待ちしています！

CONTENTS

特集 ● なぜいま、ディープオーガニックなのか？ 神足代表理事) ● ポラン広場東京集会2017参加のご案内 ● ニュースレター復刊のお知らせ ● 2016年活動Topic ● アースガーデン“冬”出店報告 ● 本の紹介「奇跡の醤(ひしお) 陸前高田の老舗醤油蔵 八木澤商店 再生の物語」 ● 新規会員・寄附者など ● 活動予定

【特集】

なぜいま、ディープオーガニックなのか ～有機農業の成熟へ向けて～

NPO法人ポラン広場東京 代表 神足義博
聞き手 事務局・白石愛子

2月18日開催の「ポラン広場東京の集い2017」のテーマは「はじめる“ディープオーガニック”」。いま、「オーガニック」は広く社会に普及し、環境問題や食と暮らしの安全性の意識の高まりにともない、安心して豊かな日常を過ごすために、エコやオーガニックな商品も定着しつつあります。この時流のなかで、「真のオーガニックの意味を理解して、新たなオーガニックの地平へ進むために集いをしよう」と話すその真意を代表・神足義博に聞きました



■「ディープオーガニック」と「シャローオーガニック」

環境思想の一つに「ディープ・エコロジー (deep ecology)」があります。これは、1973年にノルウェーの哲学者アルネ・ネスにより提唱された思想です。2013年8月発行の本誌でも紹介しています

ディープエコロジー／これは政策的な環境保全や省資源といったことだけではなく、人と自然との関係性を深く見つめなおし、生き方や心のあり方にまでかかわる哲学／人間のエゴの上に成り立つエコは、地球の生態系を守るといながらも、その逆方向に進むおそれがあることを危惧し／提唱した言葉です（ディープ・オーガニック「日野雄策氏「きとうむら通信」より抜粋」）

「人間のエゴの上に成り立つエコ」いわば人間中心のエゴのことを、ネスは「シャロー・エコロジー (shallow ecology)」と呼んでいます。現在の「オーガニック」にも、深い・ディープと浅い・シャローがあると思うのです

■日本の「オーガニック」その推移

ここで話を過去にさかのぼり、ポラン広場の経緯と日本の「オーガニック」の推移とについて話しましょう
1945年敗戦後の朝鮮戦争（50年勃発～53年休戦）から

71年ドル・ショックと73年第1次石油危機までのおよそ20年間に日本は高度経済成長を遂げます。しかし、その成長の影で四大公害病（熊本水俣病・新潟水俣病・三重四日市ぜんそく・富山イタイイタイ病）や大規模自然破壊など巨大なリスクを背負う時代が進行します

そのような社会に様々な批判があるなかで、調和のとれた社会の基盤として有機農業があることに気づき、70年代後半に有機農業を目指す百姓と出会い、産物を流通し始め、80年代にその展開発展をめざしてポラン広場をこさえ、90年代には「ポランの有機農業ガイドライン」をつくり、「オーガニック」の実践と社会化に取り組むことになりました

2000年に有機JAS認証制度が始まり「オーガニックの社会化／有機農産物の消費拡大」のために、ポランは認証制度を肯定的に評価しました……しかし、そこから曖昧な迷走ともいえることが始まったように思います

JAS（日本農林規格）は、農林物資の規格化及び品質表示の適正化、つまりは商品規格でしかありません。そこには「なぜ」「いかにして」の問いかけがありません。「なぜ有機農業なのか」「どのように有機農業を進めるか」という

考え／スピリットがありません。非思想・無思想な有機農業と有機農産物には偽装等の事件も発生しましたし、これからは起こりえます。私たちはそこに矛盾を感じながらも、社会のなかで次の展開をするだけの土台をこさえることなく様子を見続け、時流に流されるしかありませんでした

そういなか、2015年に西村和雄先生の「西村和雄の有機農業原論」が発行され転機・画期を迎えることができるのではないか、と……。西村先生は、有機農業の包括的な定義が必要であり、「その根幹は圃場生態系の構築と完成、そして圃場に土壌生物の多様な世界をつくりあげることであり」と言われます。また、現在の有機JASの95%は多投与の資材依存型であり「作物に投与するのではなく土壌生態系の円滑な動きを目的に投与する。植物質主体の堆肥」の低投与型有機農業と「作物に必要な栄養分はかなりすくなくとも、それを使いまわしながら作物自体が自律的に成長する」もつと低投与・低栄養成長型自然農法の農業形態にもっていくべきである、と言われます
そのとおりです。なぜなら現在多くの有機農業は、現代農業／慣行農法の化学肥料の代替えとして有機資材を使用しているように思われます。そして、作物に有機資材とはいえ何かを与えるということは結果として自然環境や土壌を攪乱することになるのです。そのような意味で、多投与の資材依存型は真の有機農業とはいえず準有機でありシャローオーガニックに属する、そのことが明確になったのです

■土が喜ぶディープオーガニック

それに対して、低投与型有機農業あるいは低栄養成長型自然農法はディープオーガニックだといえます。多投与の資材依存型オーガニックと識別しなければなりません。青森県津軽の米・大豆生産者である三上さんは、田畑から出たもみ殻・米ぬか・くず大豆などを醗酵させて田畑にかえす自然農法をおこなっています。良質な有機米やたわわ

に実る大豆で、地元でも篤農家として位置づけられています。その三上さんは「土壌が喜んでいる」と言う農業を実践しています

■生産と流通と消費の三位一体で

日本の風土に根差し暮らしてきたひとびとは、古くから自然と共生するという考え／スピリットをもっていました。明治以降の近代化により西洋近代の自然観が取り込まれ、自然は人間が支配し利用する対象となってしまったのです。……ちょっと立ち止まり、いまここに立つところから自然を、地球を細やかに大きく見つめたいと思います。それが本来のオーガニック、すなわちディープオーガニックだと思うのです

われわれの仕事は、Organic&Naturaの理念と実践を消費者にわかりやすくパッケージにすること。これまでオーガニックというものを日常のなかに取り込んでいない人にご届けたいとも思います

自然を、大地を攪乱することなく耕作する生産様式は、耕作者の喜びになり、そこからの美味しい産物をうけとる生活者は、自然と大地を思い浮かべる、そのワクワクする気持ち。あなたがいま食べようとする一粒のお米は、未来の水田を保つことにつながり、いま食べようとする果物一個は未来の里山自然環境を守ることにつながります。未来はいまのなかにあり、ゆっくりと背中中でひらかれていくでしょう

■集いに集まりましょう！

ポラン広場東京の集いでは、自然生態系の攪乱を極力抑え、土壌の生態系が自律的に機能するような栽培・管理の方策を、京都大学農学博士・西村和雄先生が講じてくださいます。先生を囲んでの質疑応答もします。集会後の実践にも先生からのアドバイスは続きます。生産者はもちろんのこと、消費者のみなさんもぜひご来場いただき、オーガニックの「すごい」を話し合しましょう！

2016年 活動TOPIC

●味噌づくり体験教室 2016.3.5

ポランの有機味噌生産者、島根・やさか共同農場の代表 佐藤大輔さんを講師に迎え、国産有機大豆・有機米こうじ・自然塩でつくる、味噌づくり体験教室を開催しました。小学生から大人まで15名の参加者と共に、家庭で仕込むポイントなどの話を交えながら終始和やかな雰囲気での体験教室となりました



●わわや×三三三市 2016.3.13
3月11～14日に渡って開催された東日本大震災復興イベント「3.11映画祭」のメイン会場 3331アーツ千代田で行われたマーケット。ポラン広場東京は、八木澤商店の「寄跡の醬（ひしお）」を中心に商品を展開。同時に、「私たちは東北を忘れない」というポラン広場東京の想いを掲げたパネルや、キッズウィークエンドなどの私たちが進める復興・NUKE FREE関連のアクションについてのポップも展開しました



●キッズウィークエンド@青梅 9 ～福島子ども保養ツアー～ 2016.4.22～24

キッズウィークエンドは、原発震災により外遊びや運動などに様々な制約を受けている福島の子どもたちを招待し、思い切り楽しく遊んで英気を養ってもらう保養バスツアーです。2012年から開催され今回が9回目。参加した43人の子どもたちは、多摩川遊歩道ウォーキング／ものづくり見学／杉玉づくり／ペーゴマ遊び／音楽ワークショップ／代々木公園周遊と盛



りだくさんの2泊3日を過ごしました。たくさんの方のボランティア、協力、協賛、寄附によって成立しました

●ファーマーズガーデン「春」 2016.4.23～24

アースデイ東京2016「アースネイティブ宣言」をテーマに開催されたアースデイ東京2016。この催しで、ポラン広場東京は直売市「ファーマーズガーデン」を展開。全国の生産・製造者14団体と共に、



多くの来場者にPRしました

●キッズウィークエンド@北杜&青梅 10 ～福島子ども保養ツアー～ 2016.8.18～21

10回目となるキッズウィークエンドは、日程と参加規模を拡大して開催のほすが、台風の通過に伴う荒天のため出発日を1日遅らせ3泊4日の行程となりました。66名の子どもたちが参加し、テント立て・キャンプ／ものづくりワークショップ／自然体験プログラム／国立天文台見学／山歩き／花火／多摩



川でのラフティングなどを楽しみました。ポラン広場東京は食材の提供と寄附・協賛の呼びかけなどに協力しました

●第10回土と平和の祭典 2016.10.16

音楽で彩る有機農業と農の暮らしの文化祭「土と平和の祭典」。オーガニックでエコな生産者が日比谷公園に集結しました。環境に配慮した商品販売、音楽ライブ、トークショーなど充実のプログラムに多くの来場者が集まりポラン広場東京も出店してきました



書籍出版案内

絶対、復活してやる」
若き経営者の覚悟と苦闘を描く

ひしお

奇跡の醬

～ 陸前高田の老舗醤油蔵 八木澤商店 再生の物語 ～

■ 竹内早希子 著 ■ 四六判ハード 288頁 ■ 定価 1,700円 + 税
■ 2016 10 31発売 ■ 祥伝社

東日本大震災の津波で、壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市。そこで、文化 4年（1807年）から続く老舗醤油蔵 八木澤商店は、200年以上の歴史を持つ土蔵や杉桶、そして醤油屋の命である「もろみ」を津波で失った。誰もが「終わった」と思ったが、九代目の河野通洋は震災から5日目にして「必ず再建する」と社員を前に約束する。醤油をもう一度つくれる日を夢見て、必死に再建を目指す社員たち。河野をはじめ、八木澤商店の社員たち、そして陸前高田の人々の5年間の苦闘を、緻密な取材で描くノンフィクション



会員募集



ポラン広場東京は「地球の家を保つために」という理念のもと、5つのテーマ（有機農業・農）自給・連携）食文化・環境）体験・交流）流通・販売・消費）で人と活動と情報をつなぐNPO法人です。運営は会員の方々からの会費や寄附などに支えられています。趣旨に賛同いただける方はどなたでも会員になれます。有機的な生産・製造・流通・販売・消費・生活のネットワークづくりをぜひ一緒に！

- 入会金（正会員のみ）5,000円（個人） / 10,000円（団体）
- 年会費 正会員 10,000円（個人） / 20,000円（団体）
賛助会員 5,000円（個人） / 3,000円（学生） / 10,000円（団体）
- 入会方法...入会申込書をお送りいただくか、下記の口座にご送金ください

郵便振替 00150-3-324022

- 会員特典...ニュースレター 各種イベント案内の送付、イベント等の優先参加 参加費の割引があります

ファーマーズガーデン “冬”

earth garden “冬”

新年会

@代々木公園

2017 1 21(土)・22(日)

1月 21、22日の2日にわたり代々木公園で「アースガーデン」が開催されました。アースガーデンは季節ごとに開催されるコミュニティフェスティバルです。オーガニック&エコロジカルなライフスタイルがより身近なものになるように、自然と人との共生の意識がより毎日の暮らしに根付くように、幅広い人々と様々な出店が集まる場を創り続けています。ポラン広場東京も「ファーマーズガーデン」を企画、参加しました。北海道から鹿児島まで全国の生産・製造者が集い、ネットワーキングの具体的な成果である自慢の有機野菜、自然食品などを紹介しました。よく晴れた冬空のもと、たくさんの方にご来店いただきました。



ポラン広場東京



ラパンワールくろうさぎ



カワナリ身店



べにや長谷川商店



遠忠商店

【事務局からのお知らせ】

【活動予定】● 2月 18日（土）13時～17時 ポラン広場東京 集会@三鷹産業プラザ ● 4月 22日（土）・23日（日）アースデイ東京 2017～ファーマーズガーデン@代々木公園

【新規会員・寄附者など】

ポラン基金

ポラン広場の宅配会員の方々のご支援・ご協力ありがとうございました（2016年 11月 1日～12月 31日）

ポラン基金にたくさんの方々のご協力をいただいております。紙面の都合上、全員のご紹介をすることができませんが、機会を設けてご紹介させていただきます。

編集後記

編集チーム4名での慣れない編集作業でしたが、何とか無事に復刊第1号完成に至りお届けできることにワクワクしています

（し）

ポラン ネットワーキング ニュースレター復刊 21号をお届けします。小さな、しかし大切な私の目標「白い柔かい届く！響く文章を書く」

2月 18日三鷹で逢いましょう！

（さ）

じむきよく NOTE



NPO法人 ポラン広場東京 ネットワーキングニュースレター

Vol.021

2017年 2月 1日発行

編集・発行]特定非営利活動法人 ポラン広場東京
〒198-0052 東京都青梅市長瀬 4-393-11
tel.0428-22-6821 fax.0428-25-1880



ポラン広場東京 Facebook
http://www.facebook.com/polantokyo